



第27号
平成14年
2002

会報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご 挨拶……………同窓会 会長 森岡 清…	1
ご 挨拶……………寺田 郁雄…	2
ご 挨拶……………学校長 橋本 俊彦…	3
学校の近況報告……………教 頭 桑名 隆…	4
進路指導部より……………西村 孝昭…	5
須崎支部だより ……………西森 豊…	6
京滋支部だより 支部長に推挙されて……………上田 智明…	6
卒業して早や22年 今日あるは『友と恩師の激励』……………竹内 信…	7
中京支部だより 中京支部の総会……………沖 良二…	8
関東支部だより 沖縄へ単身赴任……………野瀬 公介…	9
高知支部だより 新体制での近況報告……………筒井 賢明…	10
事務局便り……………	12
終身会費納入者(1年間分…平成13度から平成14年10月1日まで) ……………	15
平成13年度決算並びに平成14年度予算 ……………	16
平成14年度役員 ……………	17



ご挨拶

昭和二十六年機械科卒
同窓会会長 森岡清

同窓会の皆様方には、お変わりなくお元気で活躍のことと存じます。

私ことこの度の総会で第四代の同窓会長を拝命しました森岡でございます。数々の業績を全うされた歴代の会長さんの後を引き継ぎ、この大役をお引き受けするには余りにも未熟者でその使命を思いますとき、身の引き締まる思いでございますが、母校から賜った数々の恩恵に報い、同窓会の皆様方の一層の連携を強めることを目標として、このお役を拝受する決心をいたしました。私もお引き受けするからには、できる限りの努力を尽くす気持ちでございます。どうか、皆様方の絶大なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

九月七日に行われました総会では、第十一代校長の大島正賢先生をはじめ、現校長の橋本俊彦先生、教頭先生、事務局長さんほか三名の先生方をご来賓としてお迎えし、本部事務局から平成十二年・十三年度の事業報告・会計報告、続いて十四年・十五年度の事業計画並びに予算案及び役員改正などが、協議され、議決されました。詳細は、事務局便り等に記載されますのでご覧下さい。

さて、ここ数年来寺田前会長さんからも、本誌のご挨拶で毎年のように「母校存続の危機」について述べられてまいりました。

その最大の原因は、少子化による就学生徒数の減

少のため、高知県内の中学生の高校進学者数が少なくなり、高等学校の入学定員割れを引き起こしていることであります。

総会における橋本校長先生のご挨拶でも、この点について触れられ、須崎地区における来年度の中学卒業予定者数は、我が須崎工業高校と市内須崎高校の入学定員数を下回り、受験者数の一層の減少は避けられないとのことであります。

学校の存続は、生徒数の確保以外にはありません。この状況にたいして、私たち同窓会は「何が出来るか?」を真剣に考えなければならぬ時に当たっていると思います。

私は、我が須崎工業高校を、中学生にとって魅力ある学校に改革し、それを背景として工業高校の有意性を県下にPRすることが必要と考えています。

このPRには、学校当局は勿論のこと、PTA並びに私たち同窓会が一体となって当たらなければなりません。そのためには、

「須崎工業に進学すれば、こんな内容の勉強が出来る。将来はこんな仕事に就ける。」

「勉強の仕方によつては、大学進学も可能で、既に卒業生はこんな大学にも進学している。」

「先生方は、生徒に分け隔てなく熱心に指導をしてくれる。」

というPRの裏付を作ることが必要です。

校長先生とのお話では、既にこのような学校改革に着手されているとのこと、具体的には次のようなことがあげられます。

一、女子生徒の勧誘 現在の工業はもはや男子

のみのものでありません。これは全ての業界で言えることですが、特に工業における女性の進出は、これまでとはまったく異なった種類の開放が進んでいまして、工業技術を身につけた女性の職場として魅力ある存在になっていきます。

二、CAD・CAM教育の徹底 CAD・CAMを一口で言えば、コンピュータ利用の製図及び加工法を指しています。この方面の技術者の需要は今後一層の伸びを示すと考えられています。

須崎工業では、全生徒が卒業までに何とかそれぞれの専門分野におけるこのCAD・CAMをマスターし、即戦力の技術者の養成を目指して欲しいのです。この分野であれば、女性の職場としても最適で且つ誇りを持って仕事が出来ます。

三、大学進学希望者への対応 工業高校から工科大学への進学の道は、以前とは比較にならないほど開けています。また、工科大学入学後は工業高校で学んだ専門分野の内容が大きな基礎になることもその学習を進める上で極めて有利なことです。

以上、須崎工業高校のこれからの特色をまとめてみました。学校当局も惜しめない努力をされています。私たち同窓会員は、こうした学校の方針を身近な人たちにPRすることで、我が須崎工業高校に対する認識の改変に協力したいと思えます。会員の皆様には一重に強力なご協力をお願いいたします。

世情は大変な時期が続いていますが、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りしご挨拶とします。



ご挨拶

昭和二十一年機械科第一種卒
寺田 郁雄

同窓会の皆様には御元気で御活躍のことと、お慶び申し上げます。

会員の皆様には、日頃より同窓会活動に御理解をいただき、何かと御協力を賜り、誠に有難う存じます。衷心より厚く御礼申し上げます。

扱て、本年五月二十六日日本理事會に於きまして役員改選が行われ、会長職を辞任させていただきました。

想えば、この四期八年間、浅学非才の私でございますが、皆様方の御指導・御協力をいただき、大過なく、無事大任を務めさせていただきました。

茲に、皆様方の御厚情に対しまして、心より謹んで御礼申し上げます。

新しく同窓会長には、相談役の森岡清氏が選任されました。

森岡先生は、皆様方御承知のとおり、かつて母校の校長として卓越せる指導力を發揮され、消沈気味の須工を活性化され、県下教育界にその名を馳せたる人徳識見のすぐれた御方であります。

会員の皆様方には、新会長のもと、一致協力し、母校の隆盛に御協力賜りますよう御願ひ申し上げます。

顧りみますれば、私が就任いたしましたのは、平成六年でありまして、我が国の経済の先行き不安を

大きく取りざたされた頃でした。

母校としましては、来年度には、電気科がクラス減少することが確定しており、大きな時代の流れとは申せ誠に憂慮すべき事態でありました。

その後、機械科もクラス減少し、須工はこの先どうなるだろうか、将来を懸念される声が、でてきておりました。

併し乍ら、会員の皆さんは、支部総会或は、本部総会に、大勢が出席し、色々と御協力・御指導していただき、大いなる活力を与えていただきました。

そんな時、平成九年度本部理事會で、尾崎校長先生より救援艇建造のビッグニュースがあり、同窓会としても、久々の明るい話であり協力すること、決定いたしました。

そして、フィリピンネグロス島の我々同胞に対する救急艇は、造船科の先生方の御指導のもと、生徒諸君も休みを返上して頑張りとおし、物の見事に完成し、その名も「ネグロス高知」と命名され、ネグロス州知事にめでたく贈呈されました。

我々は、須工で建造した立派な救急艇が、遠くフィリピン海域での雄飛を想い、ほんとに胸をあつくいたしました。

そして、その後母校は、停頓状態の須崎市を活性化するための起爆剤として、カヌー艇八艇を須崎市

に贈呈し、大きく報道されました。

このように母校も、そして生徒諸君もよく頑張りそして同窓会も微力ですが協力させていただきました。私は会長として、ほんとに心強く、晴々しく、そして、心より喜ばしく思ったものでした。

その節は、各支部の皆様には、このきびしい時節にも拘りませず過分なる御協力をいただき、ほんとに有難う存じました。

又各支部は支部総会の開催の節には、御案内をいただき参加させていただきました。

そして皆様より色々な情報や力強い励ましの言葉を頂戴しました。私はそんな時いつも須工で学んでよかった、そして皆様にお会いできてよかった、いつも感謝いたしておりました。

その後母校は皆様ご案内のとおり、機械科、造船科、電気情報科の三科三クラス体制となり、将来に向って学校長御指導のもと、頑張っておられます。

我々同窓会としても、森岡会長の卓越せる指導のもと、母校永遠の不滅を信じ、会員相互の友情の輪を拡げながら、母校の隆盛に協力申し上げますようではありませんか。

終りに臨み、八年間の永きにわたり御協力いただきました、事務局そして各支部の皆様衷心より御礼申し上げますと共に、皆様方の更なる御発展と御健勝を祈念申し上げます、退任の挨拶といたします。

老兵は死せず
ただ、その姿消ゆるのみ
有難うございました。



ご挨拶

学校長 橋本 俊彦

ております。

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝で活躍のことと存じます。日頃は本校の教育活動にご支援、ご協力をいただきまして有り難うございます。心より感謝申し上げます。

昭和十六年に開校した須崎工業高校は少々規模は小さくなりましたが、六十一年目の歩みを力強く続けております。先輩たちが嘗々と築いてこられたこの伝統を受け継ぎ、さらに発展させようと教職員・生徒一同頑張っております。部活動におきましても、日ごろの練習の成果が実を結ぼうとしております。

本校造船科の生徒・教員が「地域を元気にしよう」との思いで、カヌー艇の建造そして贈呈し、はじまりました須崎市ドラゴンカヌー大会も今年で四回目を迎えました。年々盛り上がり、今回は約五十チームが参加、青空のもと和気あいあい、元氣良く楽しみました。また、今年はじめて、市の大会に先立ち、全校生徒で校内ドラゴンカヌー大会を生徒会の主催で行いました。市の大会を盛り上げる意味もありますが、先輩たちが製作したカヌー艇を用い、安全な行動や規律ある集団行動の体得、責任感や連帯感の涵養などを目的とし、クラス対抗競技としました。

須崎市・関係漁協・保護者の皆さんに協力いただき、成功したことも大きな意義がありました。今後は本校の伝統行事になるように取り組みたいと思っ

ております。

全国的に子供の数が減っております。高知県も来年度の中学校卒業生は今年より四二名少ない八三七六名です。大規模高校が一枚無くなる減少数です。須崎市におきましても、昨年より四一名減の二三名となっております。この様な少子化の中、本校としての大きな課題が定員確保の問題です。学校として

ましては、目的を持った生徒を、一人でも多く確保するため、中学校との連携・学校としての活性化・社会へのアピールなどをおして生徒増の取組みをしておりますが、学校だけの活動では限界もあります。同窓生の皆様におかれましても、どうぞ母校のためにお力添えをいただきたいと思ひます。

この九月七日には、二年に一度の平成十四年度同窓会総会が約二百名の同窓生が参加し、盛大に開催されました。須崎・高知の支部の同窓生はもちろん、遠くは、中京・大阪・京滋の各支部の皆さんも出席されておりました。学校と密接な関係の組織であります同窓会が、このように盛大に、総会を開き、楽しく催されることは学校にとりましても、勇気付けられます。本当にありがたうございます。その中で、四期八年間、会長職をお勤めになりました寺田都雄さまが勇退されるお話がありました。会長として、長きにわたり親身になって母校を支援・援助いた

きました。お疲れ様でした。本当に有り難うございました。

そして新会長としまして森岡清元校長先生が就任されました。ご苦労をおかけしますが、母校のために、ご協力をよろしく願ひいたします。

電気通信科設置五十周年を記念しまして三十年電気通信科卒業で大阪支部の野並允温さまよりはネパール山岳風景「ポインセチアとアンナプルナ連山」の八百号の大作油彩画をご寄贈いただきました。玄関ロビーに末長く展示いたしました。学校へお立寄りの方には、どうぞご鑑賞下さい。

最後になりましたが、本校同窓会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



学校の近況報告

教 頭 桑 名 隆

須崎工業高校同窓生の皆様には益々ご清祥にてご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進指導にご理解とご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

私は、昨年度の垣内教頭のあと、本年度新たに教頭として着任させていただきましたが、よろしくお願いをいたします。それでは、学校の近況をご報告させていただきます。

平成十四年三月一日に行いました卒業式では、市川嘉彦須崎市教育長、岡林幸保同窓会副会長はじめ多数のご来賓の方々に参列していただきました。百四十名の生徒が卒業し新たに同窓会の一員となっておりますので、先輩諸氏には今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

教職員の記事異動

本年度は、本校の教育に永年ご尽力されたおふたりの教職員が退職され、十一名の教職員が転出されました。ご退職・ご転出された教職員のご健勝を願いたいと思います。

また、転入いたしました十一名の教職員も心機一転頑張っていけますので、よろしく願います。

退 職

- 多田 和子 (化学工業科)
- 大塚 泰子 (主任技師)

転 出

- 垣内 守男 (教 頭)
- 戸梶 泰通 (事 務 長)
- 平野 佳代 (国 語)
- 吉岡 佳代 (地歴・公民)
- 大野 英徳 (数 学)
- 沖田 将之 (数 学)
- 原田 昌人 (理 科)
- 森下 克人 (機 械 科)
- 磯元 幸弘 (化学工業科)
- 三谷 誠志 (電 気 科)
- 安並 正彦 (電 気 科)
- 桑名 隆 (教 頭)
- 野中 信彦 (事 務 長)
- 徳弘 千波 (国 語)
- 市川 尊志 (地歴・公民)
- 原 仁 (数 学)
- 大川法由記 (理 科)
- 井上 耿介 (機 械 科)
- 山崎 真吾 (機 械 科)
- 武内 孝明 (化学工業科)
- 亀谷 秀英 (電気情報科)
- 明神 徹 (電気情報科)

学科改編について

少子高齢化や情報化社会の進展等により教育環境は大きな変革の時期となり、本校も学科改編により機械科四十名、造船科三十二名、電気情報科二十八名の新入生を迎え、生徒総数三百四十一名でスタートしました。いまだ少子化の勢いはとどまる所を知

らず、来年度の高吾地区の中学校三年生は、本年度よりも七十七名減(県下では四百十二名減)、その次の年度三十六名減という状態です。生徒数確保と教育改革が叫ばれるなか、大幅な選択制の導入など時代の変化や生徒のニーズに対応した教育を展開しなければなりません。同窓生の皆様方には今後ともご助言やご支援をお願いいたします。

学校行事・クラブ活動等

開校記念日の五月二十五日には、第九期生機械科卒業で(株)エス・アール・エスエンジニアリング、(株)大阪工管エンジニアリング、(株)大同エンビック取締役会長の松村隆司氏に「縁について」と題して記念講演を行っていただきました。氏の人生体験に基づき、縁の必要性や良い縁によって自分自身が磨かれ変わっていくことなど懇切丁寧にお話いただき、OBの方が後輩を思う講演に生徒たちは熱心に耳を傾けていました。また、昨年度電気通信科設置五十周年実行委員会より寄贈していただきました絵画の作者・野並充温画伯に感謝状が贈られました。「ポインセチアとアンナプルナ連山」の八百号にも及ぶ大油彩画は、学校玄関口に堂々と展示されています。ぜひ一度ご覧ください。

本年度学校長の「先輩たちが苦勞してつくりあげたドラゴンカヌーを使って、せめて高校三年間に一

全校生徒数341名 平成14年4月

	1年	2年	3年
機 械 科	40	41	35
造 船 科	32	32	31
化学工業科		19	23
電 気 科		28	30
電気情報科	30		
計	102	120	119

進路指導部より

西村孝昭

だいております。

本年の進路指導部は西村孝昭(部長 化学工業科)、西山庸一(就職 造船科)、藤岡常幸(公務員 機械科)、澤田典良(進学 電気科)、原仁(三M主任 数学)、宮畑豊(三S主任 造船)、千頭啓介(三C主任 英語)、伊藤利恵(三E主任 国語)、石元教夫(就職支援)の九名で担当しています。また、多田玲子さんにも変わらず進路のお世話をいたしてまいります。

求人状況は更に厳しさを増し、八月末日迄に戴いた求人票の総数は一四一社(関東四十社、東海十三社、関西四十三社、中四国二十四社、県内二十一社)です。ちなみに、昨年は一八二社でした。進学を希望する生徒の増加により、来春の卒業予定者一九名中、九月中旬の第一次採用試験に応募した生徒は四十九名です。事実上、二回戦のない厳しい就職試験となつております。平成十三年卒業生の進路状況は次のとおりです。同窓会の皆様方の変わりぬご支援をお願い申し上げます。

度ぐらいはカヌーレースを味わって欲しい!」との強い願いのもと、校内ドラゴンカヌー大会が行われました。記念すべき第一回優勝チームは、二年機械科でした。須崎市ならびに保護者会等の協力のなか、学校の伝統行事としての取り組みが考えられます。また、須崎市の恒例の事業となりましたドラゴンカヌー大会は七月二十八日に盛大に開催され、本校からも生徒チームが参加し、ソフトボール部チームは生徒の部で第三位と健闘しております。

クラブ活動も年々盛んになっており、県体において空手道部は個人形の部で山本佳史君(二E)が第二位で全国総体出場、四国高校空手道選手権大会出場、同じく個人組手の部で嶋崎啓太君(三E)が第四位で四国高校空手道選手権大会に出場しました。ソフトボール部は県体第三位で、四国高校選手権大会においても第三位という成績を収めております。山岳競技・フリークライミング部が本年度より部として承認され、高橋大生君(三C)・宮本悠君(三C)の二名が国体強化指定選手として認定されました。高橋君は、十月二十六日から国体での活躍が期待されます。そのほか野球部もベスト8、卓球部やそのほかの部活動も毎日熱心に練習しており、今後の活躍が大いに期待される所です。

その他、本年度は国体開催(夏季・秋季・よさこいピック)に伴い体育祭も縮小して、校内体育大会としております。

この報告をお読みいただく頃には国体も終わり、二学期も終盤になっている頃だと思えますが、同窓生の皆様方のご健勝をお祈りするとともに、引き続き本校へのご支援をお願い申し上げます。報告とさせていただきます。

進路状況

○13年度都道府県別就職者数

関東	5	東京 千葉 神奈川	3 1 1
東海	8	愛知 三重	7 1
関西	3	大阪	3
中国	6	岡山 広島	2 4
四国	9	香川 愛媛	7 2
県外計			31
県内			39

自衛隊の2名を除く。

○地域別就職者数

年度	9	10	11	12	13
県内	47	28	43	30	39
中・四国	22	14	15	14	15
大関	17	11	12	12	3
東海	13	9	8	5	8
関東	7	15	4	3	5

○本年度並びに過去3年間の求人状況(会社数)

	関西	関東	東海	中・四国	その他	県外合計	県内	合計
11年度	81	45	23	40	3	189	55	244
12年度	67	34	23	36		160	62	222
13年度	57	48	18	31		154	50	204
14年度	43	40	13	24		120	21	141

(H14年度については、8月末現在です)

須崎支部だより

昭和四十五年電気科卒

西森 豊

須工同窓会の皆さんこんにちは、須崎支部主催のゴルフコンペが、六月十六日高南カントリークラブで開催されました。コンペの日程を決定したのは四月の中旬の事で六月十六日の開催日は梅雨時期で非常天候が心配されましたが、幹事曰く私の計画したコンペはほとんど晴天だという事でした。

当日は幹事の言う通り好天に恵まれて、昭和二十七年卒業の三本さんから平成三年卒業の田部さんまで総勢二十七名が終始和気あいあいの内にゴルフをする事ができました。又須工同窓会のゴルフコンペとあって何か懐かしい、ほっとする様な普段のゴルフコンペでは味わえない雰囲気です。コンペ前のミーティングから始まり、記念撮影いよいよゴルフのスタートです。一組目の人達がティグランドへ、後の人はその周りで応援。一組目のオナーときたらこれは大変右手と右足が同じに動いているのではないかと思ふ人も左にOB、後の人は白杭の内側へ、それで一組目は元氣良く出て行きました。次は私達の番、オナーは私で何とかボールは前に転がってくれました。二人目はフェアーウエーにナイスショット、三人目は私の息子、何とゴルフ場二回目。周りには後の組がいっぱい、いやや、いややと言いながら、パチツッ、ボールはほとんど90右へ、そこには乗用カートがあり命中、ボールは左へと跳ねてOB、それでもハイフは何とか、これから本番ビールの番、私達の組はお昼はシングルクラスの飲みっぷり、午後のゴルフ

はお昼のビールが少し過ぎたのか、からつきし。

さて全員がホールアウトし表彰会場へ。順位の決定はダブルペリア方式で行う事にしています。順位のプリントされた一覧表が皆に配られると、ワイワイ、ガヤガヤ、何と優勝はクロス77、ネット72・5、昭和四十一年化学工業科卒の谷さん、準優勝はクロス88、ネット72・4で昭和三十四年電気科卒、又教壇にも立つておられた西森昌身先生でした。後三位は

昭和四十二年機械科卒の久原さんでした。ちなみに最下位は名前はお出せませんが須工同窓会須崎支部長でした。その後和やかな内にゴルフコンペも終了です。例年なら晩に一杯というところですが、今日は六月十六日父の日です。昼間きげん良く遊ばせてもらいましたから夜は家庭団らんという事でお開きでした。



京滋支部だより

昭和二十九年機械科卒

上田 智明

支部長に推挙されて

今年の夏は近年になく猛暑が続きましたが、同窓会の皆さんご健勝にてご活躍の事と思います。京滋支部も今年で創立十周年と言う記念すべき総会を六月二日に行いました。その節は同窓会長様を始めご来賓の皆様、遠路ご臨席賜り有難うございました。京滋支部役員一人として感慨の念に耐えません。この目出度い御席にて第三代目の支部長に、不肖この私が推挙されました事はこの上もない光栄でございます。

同窓会京滋支部創設については長期にわたり日夜奔走され、又本部並びに母校事務局とも密接な連絡をとり支部創立後は自ら初代支部長として今日の京滋支部を作り上げられた広瀬大先輩。又広瀬路線を継承しながら人材の育成とチームワークの結束をはかり数々の事業展開をされた二代目田村支部長。長期に渡り本当にご苦労様でした。

先日このお二人から次期支部長のお話を頂きました。支部長と言う大任を全う出来る器でない事はこの私が一番よく知っております。そして郷里には九十歳の父親が一人暮らしをされており、長男として面倒を見るため常に帰郷せねばなりません。この様な事情で今の私には支部長の大任が余りにも重すぎ、このお話しはご丁重にご辞退申し上げます。そうしますと「会社と同じく同窓会も一人だけでは運営出来ない。幸い今の京滋支部はベテランから若い人

まで優秀な人材がそろうている。又積極性があり、かつ協力的だから心強い。何事も相談しながら今日の京滋支部を共に育て上げて来た貴方が一番よく知っているはずだ」と言われました。私もいろいろ思案しましたが、優秀な方が沢山居るので相談しながら運営して行けばやって行ける、と思いい三代目支部長をお引き受けした次第です。

母校は今小人化の影響を受け大ピンチに陥って居ます。森岡新会長を迎え、京滋支部も、その方針に従い母校の隆盛に努力して参りたいと思つて居ます。全国の同窓会の皆様今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げ支部長就任の言葉と致します。



卒業して早や22年

今日あるは『友と恩師の激励』

昭和五十五年電気科卒 竹内 信

私が四国を出たのは中学校、高校の修学旅行に続いて三度目が今勤めている滋賀県の会社に就職した時でした。それは二十二年前でビクビクした旅立ちでした。その年、全国から沢山人社しましたが、今は半数以上が退社し郷里へ帰っています。一週間退めた人もいました。私自身も「退めて帰ろう」と考えた時期もありました。

郷里へは毎年一回帰りますが未だ母校に立寄った事はありませんでした。母なる母校と言いますが四年前の盆休みに帰郷した時、ふとした思いで母校の門をくぐりました。続く不況で会社の締付けは厳しく「転職しようか？」と悩んでいた時でした。しかし新居のローン、子供達の学費、そして家族や会社の後輩の事を思うと決断出来ませんでした。

夏休みで学校は休みでしたが、グラウンドでは練習する後輩を沢山のOB達が見守っていました。

自宅に帰ると同級生から「今日学校で君を見たぞ、同窓会をやるから出てこいや!場所は担任だった依光先生の家やし」との電話でした。夕方行くと先生を中心に懐かしい顔ぶれが揃っていました。やがて盃も進み思ひ出話に花が咲きました。仮病でさぼる為、集団風邪による学級閉鎖を企み見事失敗をした話。いろいろと楽しい話が續くうちに「皆苦労しながらも頑張っている。世間は甘くないぞ」など、今日は先生を始め皆から励ましの言葉が多い。不思議に思っていたら「今日、学校でお前を見たが

元気がなかったと言う、おまえを励ますためにあいつがみんなを呼んだんや」持つべきものは友と言うが、これで会社を退める気持ちも吹っ切れました。

「ふるさととは遠くにありて思うもの」今年も高校野球がありました。最近では母校も健闘し昨秋の県大会では準決勝迄勝ち進み、後一勝で四国大会に出場そして春の選抜大会で甲子園に母校の校歌が流れることでした。今夏も堂々準々決勝に進出、後一歩。ガンバレ須崎工業高校。甲子園が待っている。

「京滋支部

平成十四・十五年行事報告・案内」

昭和三十四年電気通信科卒 橋田昌和

支部創立十周年を記念する定例総会並びに懇親会を去る六月二日、多数の御来賓を迎えて開催。

1、平成十四年度事業報告

一、四月十四日、余呉湖畔散策と賤ヶ岳ハイキング

「天女の羽衣伝説」でおなじみの余呉湖から、NHK大河ドラマ「利家とまつ」で放映された秀吉と

利家の合戦場、賤ヶ岳にハイキング(写真)

二、九月二十九日、ゴルフ大会

今年から会場をグレイドアップし、場所を京都府宇治市の日清都CCに移して開催。

三、十一月十七日、湖東三山並びに永源寺の参拝と紅葉見物

歴史が古く三山として有名な、百濟寺、金剛寺、西明寺と永源寺の素晴らしい紅葉の庭園を訪問。

2、役員改選

支部長に上田智明氏(二十九年機械科卒)を選任

3、平成十五年事業計画

七件の行事が候補として推薦され、新・役員会議で検討の結果、平成十五年度行事として次の三件が決定しましたので御案内致します。

一、朽木村キャンプ

四季折々の景観に恵まれ自然が一杯の滋賀県朽木村。「広大な森林公園、朽木グリーンパーク想いで森」は遊びに、休養に、スポーツにそして自然とのふれあいに、皆で楽しめるレジャーエリアとして脚光を浴びている。

山荘、バンガロー、キャンプ場、温泉等施設も豊富。日本海にも近く釣りや海水浴に足を延ばすことも出来る。

日時：平成十五年七月二十六日(土)
二十七日(日) 一泊二日のテント泊
会費：六千円

内訳：交通費、テントレンタル料、キャンプ場代、食費代(三食)、入浴料、その他経費

コース：初日：午前九時 JRR守山駅集合、車に分乗し琵琶湖大橋→R一六一→朽木村
Aグループ：旧秀隣寺庭園→朽木、葛川自然公園→ブナ原生林等見物。

Bグループ：蛇谷ヶ峰(九〇二m)ハイキング。
初日の昼食は各自持参、夕方テント設営後、全員でバーベキュー会食、温泉入浴→テント泊。

二日目：朝食→三方五湖方面見物→昼食→JRR守山駅で午後三時頃解散予定。

宿泊はオプション(実費個人負担)で山荘又はバンガロー使用も可(要予約)

二、ゴルフ大会

日時：九月二十八日(日) 午前八時 現地集合
場所：京都府宇治市、日清都CC(電動カート)
会費：五千円(賞品代、会食費、写真代)
プレー費：一万五千元(昼食付) 各自精算。

三、飯道山(滋賀県水口町・六六四m)ハイキング

飯道山(はんどうさん)は、昔は大峰山へ入山するまでの修行が行われた修験場の山で、滋賀団体では青少年の部の登山コースとなった。最近では八月十六日、地元の夏祭りにユニークなバイアスロン競技が行われる。

日時：十一月十六日(日) 午前十時 JRR草津線
貴生川駅集合。
会費：五百円(昼食は各自持参)

コース：貴生川駅をスタートし飯道山頂上まで約二時間、帰途は趣きを変えて別のコースをとる。
JR貴生川駅で午後三時頃解散予定。

* 行事への参加申込み方法
ハガキ又はファックス等にて左記事務局までなるべく早く、遅くとも開催日の四十日前に連絡して下さい。参加の申込みを頂いた方には行事開催日の約一ヶ月前に詳細案内状を送付します。都合で参加出来なくなった方はその時に連絡下さい。

* 参加申込み先
〒528-0049
滋賀県水口町貴生川610-16
電話・FAX 〇七四八-一六二一四三三〇

橋田 昌和(京滋支部事務局)

中京支部だより

中京支部の総会

昭和三十九年機械科年

沖 良二

中京支部再開後、初めての総会を行いました。同窓会の名簿編纂により、会員の所在が明確になったのをしおに、中京支部総会を開催することにしました。

これまで、県単位での活動としていましたが、再開後四年が経過し、そろそろ全体の総会をと計画してみました。中京支部では、住所の判明している会員は二百名弱。同窓会活動がまだまだ浸透していないことと、静岡県から三重県までの広範囲にあり、どの程度の人数が集まれるかが課題でした。

時は残暑も厳しい九月二十五日。名古屋市中心地の栄にあるマルベリーホテルに集う計画で案内を送、参加者を募集しました。

出欠回答は八十五人でした。連休の中日で、敬老の日となったことなど、時期的に無理があったのか出席回答は十三名でした。今回は、三重県からも三名出席があり今後に期待の持てる総会となりました。

直前になり、仕事の都合で二名の欠席が出ましたが、小規模ながら、会計報告や出欠回答のあった方々の近況メッセージなどを出席者に報告し、以下を確認・承認いただきました。

■ 役員の留任

(支部および県の分会長等は以下のとおり)

・ 支部長代行兼愛知県分会長 沖 良二

・ 岐阜県分会長 西森 武光

- ・三重県分会長 明神 聖嘉
- ・静岡県分会長 西村 仁利
- ・顧問 春田 陽三

■行事計画
一、年間二回の行事を計画し、同窓会の輪の拡大を図る。

・本部同窓会の様子や他支部の活動状況を報告、中京支部としては、参加人員が少なくても、回数をこなす中で同窓会の輪の拡大を図っていく。

二、行事案

- ・名古屋港水族館 ・御在所岳ハイキング(三重)
- ・明治村(愛知) ・リトルワールド(岐阜)
- ・安城デンパーク(愛知) ・バスツアー
- ・山之上なし狩(岐阜) ・スキー ・ゴルフ
- ・ウォーキング など

総会の後の懇親会では、初参加の会員が多く、学生時代の話に花が咲き、気持ちはみんな十代に若返っていたようでした。そんな懇親会も和気あいあいのうちに時間が過ぎ、料理を食べる間もなしに閉会となりました。その後、名古屋国際ホテルでしばしコーヒータ임을過ごし、散会となりました。

年齢の差はあっても、須崎工業高校の同窓生という共通の場を今後も提供していかなくてはとの思いを強くした一日でした。

参加していただいた方々に感謝いたしますとともに、中京支部会員のみなさんには、今後の活動への参加をよろしく願います。

（紙面をお借りして参加者のみなさんの写真を掲載します）



森岡 輝男 (S45M)



- 右 列 (S43C) 里 郎 夫 幸 志
- 左 列 (S48E) 橋 洋 春 兄
- 右 列 (S50C) 高 拓 春 兄
- 左 列 (S55E) 田 木 脇 中
- 前 列 (S24M) 三 郎 真 嘉 二 廣
- 左 列 (S29M) 陽 二 良 聖 良 幸
- 右 列 (S34M) 田 平 並 神 冲 岡
- 左 列 (S38M) 安 明 神 冲 岡
- 前 列 (S39M) 中 安 明 神 冲 岡
- 右 列 (S43M) 春 中 安 明 神 冲 岡

森岡さんは、当日労働組合の行事のため、解散後に北陸から駆けつけてくれました。写真はそのときのものです。

みんな元気です。おたよりください。

暑かった今年の夏。一方で九月二十四日(火)には、乗鞍岳では初冠雪が観測されました。間もなく紅葉前線が駆け下りてきます。

他支部のみなさん、来年の夏には上高地やアルペングルートなど涼しさ満点の中部山岳はどうぞ。

関東支部だより

沖繩へ単身赴任

昭和三十一年電気通信卒 野瀬公介

ふとしたことからこの歳になって沖繩へ単身赴任となりました。自らは「単身不妊」だぞと茶化しておりますがなかなかゆるくはありません。

沖繩はご承知のとおり四季を通じて色とりどりの花に囲まれた楽園です。気温は年間を通じて十五、三十一度の範囲ですから、本土よりずっと暮らしやすい環境です。

それにこちらの人々は気持が大変おやかで、思いやりに満ちており、いざというときお互いを支え合って暮らしています。

私のようにまだ沖繩の地理にも暗く、下手な運転者が市街地でやむなく突然の車線割り込みを行って

も周囲は文句ひとつ言わずに道を空けてくれます。家族・親族の関係を大切にするという良き慣わしが続いていることでも感心させられます。

春先に行われる「シーミー（清明節）」のお祭りでは本家のお墓の前に親族一同がご馳走を持って集まり、ひいおばあさんの采配で丸一日ご先祖様を供養し、年配者たちをいたわり、若者たちの夢を聞き、アドバイスしながら、来年のこの席ではもっとみんなに注目してもらえ存在になろうとそれぞれに決意を新たにさせられる一日でもあるようです。

夏祭りでの「エーサー踊り」は、わが「よさこい鳴子踊り」に匹敵するにぎやかさで、各地域の青年団がそれぞれの名誉をかけて頑張っています。

日本に鉄砲が伝わったのは十六世紀中期、九州種子島経由ということになっていますが、実はその百年も前からすでに沖縄には鉄砲が存在していたそうです。このことは古文書や世界遺産となった琉球グスク（城）群の発掘調査で判明したそうです。（沖縄博物館）

しかし心優しい琉球の人々はそれを大量に装備して軍事大国になるといった策には出ませんでした。その結果皮肉にも歴史的にはこの島は中国と大和、そして薩摩藩から多重支配を受けるという大変複雑な立場に置かれ、また第二次大戦では悲惨な戦場となり、二十万人もの人々が爆弾や機銃、火炎放射器にやられ、手榴弾や短刀で、あるいは絶壁から身を投じて自決せざるを得ないというあわねな犠牲を強いられてきました。今でも在日米軍基地の七十五％が沖縄に集中しているということで議論を呼んでいません。

そういった経緯を意識してか、今でもわれわれ本

土から来た者を、居酒屋で隣り合わせたこちらの年配者たちは「やまとんちゅう（大和人）」と呼びます。でも決して敵対意識からではなくて、沖縄は良くも悪くもまだ違いがあるんです、といった意味が込められています。「このゴーヤーはやまとんちゅうにはちと苦いでしょう？」といったあんばいです。「いえ大好きです。このおかげで元気に一年暮らすことが出来ました、いただきます。」と応えておりま

す。うれしいことに沖縄の海はまだきれいです。船から下ろした釣り糸が10m以上に亘って鮮やかに見えるので、波が静かなときはサカナと「面談」しながら釣りを楽しむことが出来ます。グルクン、ミーバイ、タマンといった色とりどりのサカナが豊富に泳いでいてよく釣れます。

しかもこれらちゅら（きれいな）な魚たちは見かけによらず味もなかなかで、刺身や唐揚げが泡盛によく合います。

一方、沖縄の女性たちはまだ積極的に赤ちゃんを沢山産んでくれます。したがってこのアパートの周辺にも子供たちの元気な声があふれ、明るい未来を感じさせてくれます。

子供といえは練馬に暮らすわが息子一家にも娘（二歳半）がいて、先月そろって沖縄へ「慰問」に来てくれました。その後インターネットによるTV電話が双方で使えるようになり、カメラの前でお茶目ぶりを発揮してくれる孫娘にこちらもいっしょに戯れながらの対話を楽しんでおります。

トロピカルフルーツ大好きこの恰子にカメラの前でマンゴーやタイガールフルーツなどをちらつかせると、冷蔵庫に走り、見つからないと、「ママ沖

縄へ行こ！」とせがむのがこの沖爺には嬉しくてたまりません。

こんな暮らしてにわか「熱帯魚」になった身体でまた「本土人」に戻る時期が近づきましたが、これからの関東の寒さが気になります。

冷え込みに耐えきれなくなったらまた沖縄に戻りましょう。二月中旬に「31T会」の年間行事として今回は沖縄旅行が計画されており、那覇空港には大勢の「ちゅらさん」たちが出迎えてくれるすばらしく楽しい旅です。しかも精一杯安くしてもらった経費でテラックスな数日を過ごすことが出来ます。皆様お誘い合わせの上ご参加ください。お待ちしております。

詳細は左記へお問い合わせください。



kohn@nifty.com (野瀬公介)

090-9373-9510

(連絡を密にするためにe-mailの活用をお勧め致します、どうぞよろしく…)

新体制での近況報告

昭和三十年電気通信科卒 筒井賢明

同窓会の皆様方には、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

多数のご参加をいただいて開催された、「電気通信科設置五十周年記念同窓会」が昨年の九月十日、久しぶりの再会に夜も耽れるまで歓談した余韻に浸る間もなく、翌九月十一日には、白昼に数千人もの犠牲者が生じ、世界中がニュース映像に釘づけになった、ニューヨークの「世界貿易センター」ビルを始めたとする同時多発テロ事件、そして今年の九月には、

日朝首脳談話で金正日総書記から予想だにせず突如表明された、拉致事件の認知と謝罪、続いて発表された、五名生存・八名死亡という情報に、二十年余りも安否を気遣い続けたご家族の心境を思うと、いたたまれぬ気持ちにさせられる毎日で、相手は北朝鮮だけに情報の真偽にも疑念を拭い得ません。僅か一年余りの歳月の中で世界の動向に驚かされ、不況から抜け出す日が遠いことを感じる昨今です。

さて高知支部では本年五月二十五日の総会で、平成九年から五年間もお骨折りいただいた、井上健弘支部長に代わり、「電通五十年記念大会」の開催を執り仕切った秋山正元氏が支部長に就任し、若干名の理事も交代いたしました。私も記念大会の実行委員に加わったご縁で支部の会計を担当しております。

私は卒業後就職した企業の関係から、入社以来平成十一年の退職まで四十二年余りの在職中、一度も

高知での勤務がなく、これまで同窓会に出席する機会を得られませんでした。退職後こうした場を与えられて旧友との懐かしい再会が大変嬉しく、同期生からのお誘いには家内ともども出席しています。白髪となつてから郷里に戻った浦島太郎で、地元と同窓会諸氏の情報も人脈も持ち合わせず、本部総会や各種行事への参加者募集の際には、大変肩身の狭い思いをしております。

九月七日の平成十四年総会には高知支部から五十五名が参加しましたが、健康維持に留意しながら精力的に活動する秋山支部長の熱意に敬服させられますし、どれほど丁寧な文書よりも同期生の一声がいかに多くの賛同者を得るかを痛感しました。

またこの総会で昭和二十六年機械科卒で、第十四代校長でもある森岡清先生が同窓会長に就任されました。年々深刻化する少子化や県都への学童集中の背景から、母校の存続すら懸念される中で、先生のお人柄やご経験・能力等から、まさしく待望の会長



秋山高知支部長

須工同窓会高知支部総会へのご案内

【恒例によりまして、いつもの処で、いつものように開催します。】

日時 平成15年5月25日 18:00より(母校開校記念日)

場所 高知会館(県庁前電車道南側 電話088-823-7123)

会費 一般¥5,000

平成13.14.15年卒業生と女性 ¥3,000

年齢や性別にかかわらず、多数の皆さんのご参加をお待ちしております。

高知支部以外の皆様のご参加も歓迎いたします。

支部長 秋山正元 電話(088)845-1486

誕生と喜んでおり、支部としても誇り高い思いです。これからの支部の活動には、各年代の同期生や職場の中から推薦される方達に役員として加わって頂き、意思疎通や情報交換を活発にし、これらのご意見の中から定例的な会合のみでなく、ゴルフの同好会や各種レクリエーション等の企画も採用し、職を退いた年代ばかりでなく現役の方々にも関心を寄せられ、参加しやすい活動を工夫することが会員相互の親睦をはかる上で肝要だと考えております。

スタートしたばかりでこれという実績も持たぬ新体制ですが、役員のみでなく多くの同窓会各位からご指導ご鞭撻を賜りながら、次世代へ引き継がれる組織となることを祈念し、近況報告いたします。

空手部インターハイ出場

空手部顧問 篠田 佳昭

この夏、茨城県取手市で行われた全国高等学校体育大会空手道個人形競技に、二年電気科山本佳史が出場しました。出場までの経過と、大会での成績を報告させていただきます。

まず、全国高等学校体育大会の出場権がかかっている県体が、五月に行われました。個人形では山本佳史が二位に入り、組手では個人で三年電気科嶋崎啓太がベスト8、団体では予選で敗退しました。この結果、山本が四国大会と全国大会、嶋崎が四国大会に出場が決まりました。



六月には四国大会が行われました。緊張のため本来の動きができず、個人組手では一回戦敗退、個人形も予選で敗退しました。

それからは四国大会での悔しさをばねに、猛練習を行いました。大会に出場できなかった他の部員達も応援、協力してくれたおかげで、充実した練習を行うことができました。

そして八月の全国大会を迎えました。全国の壁は厚く、結果を残すことはできませんでしたが、山本にとっても、また須崎工業高校空手道部にとっても、いい経験になったと思います。

これからも須崎工業高校空手道部をよろしくお願います。

事務局長退任の挨拶



昭和四十一年造船科卒

津野 隆

同窓会の皆様方におかれましては、ご健勝のことと存じます。

本年四月の校務人事により同窓会事務局長を退任することになりました。

平成十年より四年間の短い間でしたが、寺田会長を始め、本部役員や支部役員の皆様そして多くの会員の方にお力添えをいただき、私自身の力不足を感じながらも、何とか勤めることができました。ご支

援をいただきました方々に紙面をお借りしまして、お礼を申し上げます。

後任として元事務局長の井上耿介氏が転任されてきましたので、本部事務局長として就任していただくことになりましたので宜しくお願いいたします。

事務局長を退任しても、本部事務局の一員として同窓会の発展のために努力する所存ですので宜しく願っています。

事務局長就任の挨拶



昭和三十九年機械科卒

井上 耿介

同窓会の皆様方におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。

今春の教員人事異動により、高知東工高・高知海洋高と転勤して、四年振りに母校に戻って参りました。

津野隆先生が、校務のために事務局長をやむをえず退任され、後任として私が事務局長を引き受けた次第です。

皆様のお力添えを戴き、この大任を務めたいと思っておりますので、宜しく願っています。

事務局便り

会員の皆様ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年度も、五月二十五日に第六十一回目の開校記念式典が開催されました。

記念講演には、大阪支部の(株) エス・アール・エス・エンジニアリング取締役会長 松村隆司氏(昭和三十三年機械科卒)に、「縁について」と題して、高校時代の思い出や様々な出合い・縁についてご講演を頂きました。

改めて、講演のお礼を申し上げます。

その後、恒例の科別対抗綱引き大会が快晴のグラウンドで行われ熱戦の末、造船科が優勝しました。

九月七日には、平成十四年度同窓会総会がJ A土佐くろしおに於いて、七名の恩師の先生方にご出席を頂き、会員八十五名の参加の中に盛大に開催されました。総会の議題については次の通りです。

一、平成十二年度事業・総会報告、十三年度事業報告

二、平成十二・十三年度会計報告並びに監査報告
三、役員改選(任期、平成十四・十五年度)

新任の役員(役員名簿は十七頁に記載してあります)

相談役 寺田 郁雄(会長より)

会長 森岡 清(相談役より)

副会長 井上 耿介(常任理事より)

(事務局長)

常任理事 津野 隆(事務局長より)

常任理事 梅原 正博(理事より)

常任理事 宮崎 司(日十三より母校教員)

理事 田村 武夫(京滋支部)
理事 秋山 正元(高知支部長)
理事 戸梶 昭雄(須崎支部)

役員の皆様、宜しく願います。

退任(平成十二・十三年度退任された役員)

常任理事 武内 徳雄(昭二十三機械二種)

常任理事 西森 昌身(昭三十四電気通信)

常任理事 竹崎 貞男(昭四十三機械)

理事 川添 泉(昭二十一機械一種)

理事 廣瀬 理(昭二十一機械一種)

理事 事 竹内 良一(昭二十五機械)

退任されました寺田会長を始め役員の皆様は、長年に亘り同窓会のため、ご尽力頂き誠にありがとうございました。今後とも宜しく願います。

四、平成十四年度事業計画・予算

五、その他

ペイオフに対応する特別会計の運用について質問があり、事務局より、対応した運用を図りたいとの答弁があり、(了承)

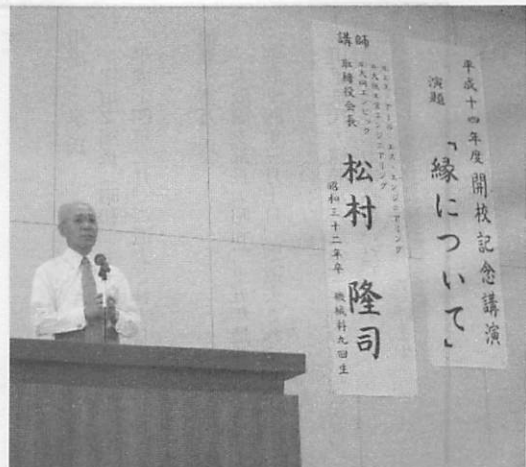
六、功労者表彰

寺田郁雄前会長と矢野象一初代事務局長に長年の功労を讃え感謝状と記念品を贈呈しました。引き続き、懇親会が開かれ、久しぶりの旧交を温め楽しい宴会となりました。



平成十四年度開校記念講演
演題 「縁について」

講師 松村 隆司
昭和三十三年 機械科九回生



新聞広告の依頼(協賛金)にご注意下さい。

最近、須崎工業高校〇〇周年記念等の新聞広告を出すので、協賛金をお願いしたいとの勧誘がありますが、学校、同窓会では、一切そのような広告はお断り下さい。

御寄付御礼

*昭和三十二年機械科卒・松村隆司様
開校記念祝金として金七万円を学校・同窓
会に頂きました。

空手部（電気科二年）山本佳史君のインター
ハイ出場とフリークライミング部（化学工業
科三年）高橋大生君の国体出場祝賀、横断幕
二張り作成に使わせて頂きました。

ご厚情、誠にありがとうございます。



同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を持って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息等で、活動資金の大半を捻出しています。

この実情にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますが、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入していただいております。

終身会費未納の皆様方には、（会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます）同窓会活動を今後とも益々発展させるため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力お願い致します。

平成8年8月の総会にて終身会費の値上げが決定され、1万5千円の納入をお願い致しております。

ご 訃 報

田村 隆徳 先生

ご勤務歴

昭和十六年七月～昭和三十七年機械科教諭

昭和四十四年四月～昭和四十九年三月教頭

平成十四年一月にご逝去されました。

須崎工創設からのご勤務で、須崎工を同窓生以上に大切に思い、また同窓会のためにご尽力戴きました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

川添 泉 氏

窪川支部長（昭和二十一年機械一種卒）

平成十四年二月、ご逝去されました。

楠瀬 富万 氏

大阪副支部長（昭和二十五年造船卒）

平成十四年三月十日、ご逝去されました。

川添泉氏・楠瀬富万氏のご生前の同窓会活動に対するご尽力に感謝いたします。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

終身会費納入済者名 (平成13年度から14年10月1日まで)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

- <昭和21年>
機械科 田村 晃
- <昭和31年>
機械科 岩本 臣 水
- <昭和38年>
機械科 門田 明
化学工業科 中越 範 子
- <昭和40年>
造船科 正木 賢 明
- <昭和42年>
機械科 片岡 邦 久
- <昭和43年>
化学工業科 胡摩崎 長 廣
電気通信科 伊藤 和 明
- <昭和47年>
機械科 戸田 忠 芳 男
吉 永 吉
- <昭和59年>
電気科 瀨口 直 己
- <平成13年>
機械科 石井 井大 岡片
川上 上崎 野林 岡
博 弘 尚
之康 学達 聡希 優

- 孝浩之太 学美直一 史平 廣志郎也 宏人大太之一人 和貴亮哉 洋誠哉 智翔也 介和
- 和文 浩雄 雄 慎裕 恭辰 泰満 智友直 皓稔 太直大 千憲 朋正 慎 和佑大
- 川澤 崎崎 嶋岡 木内 井崎内 野部 川村 森田 岡原 原岡 岡岡 地神 澤下 田田 光崎 科
- 上川 小小 児笹 高竹 玉豊中 永南 西西 西橋 林藤 藤藤 藤政 政松 官明 森森 森森 森山 山
- 池市 市上 氏大小 片北 黒近 笹高

- 幸広也 郎作 史幸 悟聖也 吾真 馬幹一 朗志 征司 猛 也 宏博之法 実生 太剛也 真地 行輔 太志 章人 裕也 祐平 正幸 児
- 頌明 竜誠 一 勇勝 尚翔 賢裕 伸 和直 竜崇 隆 耕高 慎智 雅裕 悟菜 航優 信 大計 憲幸 武博 英孝 浩伸 亮壮 義潤
- 橋脇 部澤 島上 村山 地瀬 村田 林野 原岡 田田 野科 田上 上瀨 部岡 下林 味味 竹藤 井田 本脇 梶島 川村 岡村 村田
- 高谷 田近 中浪 西野 野野 濱林 日藤 藤前 松邑 矢 池井 井江 岡片 木小 古古 佐佐 田竹 谷谷 戸豊 中 西 西野 野野 橋

- 也之 樹也太 効明 彦史 己 一介 司裕 人豊也 平輔 宏之一 義人 司矢 圭幸 亮哉 晶浩 幹壮 浩之久 久也 士誠之 平
- 慎孝 秀智 亮剛 史亮 剛拓 太俊 卓 雅 智洋 大知 浩幸 正真 哲隆 泰秀 拓智 一直 正倫 謙典 靖起 武 靖恭
- 岡口 美 木浦 岡瀬 本山 科 井川 川川 藤田 野山 岡田 倉上 沢本 橋崎 川野 野村 村森 本岡 田谷 谷岡 川本 野島 岡
- 濱濱 林藤 細松 森柳 山横 氣 青市 市市 伊岡 小斧 片堅 鎌川 國坂 高竹 玉津 長中 仲西 橋濱 弘古 古正 又松 森横 吉

平成13年度一般会計決算報告書

単位(円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	352,426	
新入生入会金	250,000	2,000円×125名
定期預金利息	96,800	
普通預金利息	748	
雑収入	0	
特別会計補助	2,012,050	
合計	2,712,024	
項目	金額	備考
会議費	90,131	理事会・その他
	57,750	開校記念品代
	442,050	会報印刷代
	773,167	会報送料
事業費	23,688	卒業証書用丸筒代
	100,000	電気通線料立50周年記念垂幕補助
通事	21,865	費
事務	29,724	費
庶務	181,200	費
旅費	199,903	費
支那配分	788,740	費
雑費	2,236	費
予備	0	費
合計	2,710,454	
平成14年度への繰越金額	収入 2,712,024 - 支出 2,710,454 = 1,570	

平成13年度特別会計決算報告書

項目	金額	備考
前年度未累積立額	33,870,000	
平成13年度納入額	2,100,000	15,000円×新卒140名
	225,000	15,000円×旧卒15名
合計	36,195,000	
一般会計へ補助	2,012,050	
合計	2,012,050	
平成14年度へ累積立額	収入 36,195,000 - 支出 2,012,050 = 34,182,950	

監査報告

帳簿及び証券類等により監査の結果、金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証券ともに簿類に管理適正に執行されています。
平成14年4月8日



監査人 坂本 西森 操 豊

【収入】 平成14年度一般会計予算

項目	金額	備考
前年度繰越金	1,570	
新入生入会金	204,000	2,000円×102名
定期預金利息	72,000	
普通預金利息	700	
雑収入	70,000	
特別会計補助	2,547,950	
合計	2,896,220	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	90,000	理事会・その他
	50,000	開校記念品代
	440,000	会報印刷代
	730,000	会報送料
事業費	22,000	卒業証書用丸筒代
[1,372,000円]	100,000	總會補助
	30,000	調査費
通事	35,000	費
事務	40,000	費
庶務	220,000	費
旅費	340,000	費
	795,550	
支那配分	金	
		開校 200円×323名 = 64,600円
		中京 300円×177名 = 53,100円
		京滋 400円×91名 = 36,400円
		大阪 200円×458名 = 91,600円
		高知 200円×898名 = 179,600円
		須崎 170円×1795名 = 305,150円
		穂川 300円×114名 = 34,200円
		幡多 300円×103名 = 30,900円
雑予備	0	費
	3,670	費
合計	2,896,220	

平成14年度特別会計予算

項目	金額	備考
前年度未累積立額	34,182,950	
平成14年度納入額	1,785,000	15,000円×119名
	270,000	15,000円×18名
合計	36,237,950	
一般会計へ補助	2,547,950	
合計	2,547,950	
平成15年度へ累積立額	収入 36,237,950 - 支出 2,547,950 = 33,690,000	

平成14年度 役員名簿

役職	氏名	卒コード	科別	備考
相談役	田辺 博造	1S18-013	機械2種	
〃	清家 寛	1S18-010	機械2種	
〃	寺田 郁雄	1S21-025	機械1種	
名誉会長	橋本 俊彦			母校校長
会長	森岡 清	1S26-020	機械	
副会長	岡林 幸保	1S28-038	造船	
〃	下元 征夫	1S37-129	電気通信	
〃	桑名 隆			母校教頭
〃	井上 耿介	1S39-004	機械	事務局長
常任理事	森下 春茂	1S21-019	機械1種	
〃	井上 健弘	1S27-002	機械	
〃	山地 健三	1S39-180	化学工業	須崎支部長
〃	梅原 正博	1S47-116	化学工業	
〃	西山 庸一	1S48-090	造船	事務局
〃	山岡 英樹	1S57-034	機械	事務局
〃	宮崎 司	2H11-056	造船	事務局
理事	田村 武夫	1S29-050	造船	
〃	吉村 功	1S21-081	機械2種	
〃	坂本 臣三	1S25-009	機械	
〃	秋山 正元	1S30-061	電気通信	高知支部長
〃	野並 允温	1S30-080	電気通信	大阪支部
〃	中西 安男	1S32-023	機械	
〃	松浦 政志	1S35-065	機械	幡多支部長
〃	堀内 靖博	1S36-061	機械	関東支部長
〃	沖 良二	1S39-013	機械	中京支部
〃	笹岡 文子	1S39-157	化学工業	
〃	竹田 友一	1S42-042	機械	
〃	戸梶 昭雄	1S45-149	電気	
〃	坂本 定浩	1S54-009	機械	
会計	津野 隆	1S41-090	造船	兼常任理事
監査	坂本 操	1S43-030	機械	
〃	西森 豊	1S45-151	電気	
支部長	下村 昇	1S24-055	機械	大阪
〃	上田 智明	1S29-003	機械	京滋
〃	沖本 毅	1S33-012	機械	中京

校歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
大平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穩は
波静かなる錦浦
- 三、工業報國理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十九頁の様式)

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していませんので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四二〇円
成績証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円

送り先 千七百五十八五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話(〇八八九) 四二一七八六

FAX(〇八八九) 四二一七七一五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆様に原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございます。

会報「にしきうら」第二十七号を、お送りいたします。会報届け先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉書で事務局まで連絡下さいますようお願いいたします。

平成十五年度も会報第二十八号を発行予定しておりますので、ぜひ皆様のご寄稿をお願いします。尚、勝手ながら、原稿は九月五日までに事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。

編集委員

会報「にしきうら」第二十七号

平成十四年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

有限会社笹岡印刷所

印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号
☎(〇八八九) 四二一〇二四四番

資源保護のため再生紙を使用しています。